

農業



平成26年5月号
会誌 No. 1585

目次

巻頭言

新芽.....吉田 岳志 3

論壇

温暖化への「適応」概念の登場と不安.....祖田 修 4

現地セミナー

いま、秋田の農業をどう拓くかⅢ..... 6

—秋田の持ち味を活かした農業経営戦略の展望—

挨拶.....齋藤 作圓 6

挨拶.....吉澤 結子 7

来賓挨拶.....佐藤 博 8

基調講演.....佐藤 了 9

秋田の持ち味を活かした農業経営戦略の展望

現地セミナー

いま、栃木の農業をどう拓くか（Ⅱ）..... 21

—地域づくりの展開—

研究の最前線

侵入病害虫に関する研究開発の現状と今後の取り組み……………本多健一郎 31
—タバココナジラミとトマト黄化葉巻病を例として—

農業・農村の現場から

春播ソバ新産地における6次産業化の取り組み……………西原 幹雄 37

世界の農業は今

国際植物防疫条約（IPPC）のご紹介……………横井 幸生 44

農政情報

大日本農会だより…………… 51

表紙写真説明

五月の津軽（青森県北津軽郡鶴田町）

津軽富士の別称で知られる岩木山（標高1,625m）は、県の最高峰で、津軽平野のどこからでも見ることができる独立峰である。鶴田町は、津軽平野のほぼ中央にあり、南西に弘前市、北西部につがる市、北東部に五所川原市、南東部に同郡板柳町に隣接する。面積は46.4km²、人口約15,000人の水稲とリンゴ栽培を主とした農業を基幹産業とする町である。その他の作物として「スチューベンぶどう」、転作作物として導入されたサクランボなどを栽培している。

特に、「スチューベンぶどう」は、作付面積・生産量ともに日本一で、糖度が高いことで知られている。この「スチューベンぶどう」は、アメリカのニューヨーク州立農業試験場が育成した品種で、日本では昭和27年に導入されたという。ニューヨークとほぼ同じ緯度で栽培される温暖な地域での栽培が不向きなブドウとなっている。国内のブドウ出荷が終わった9月下旬から出荷が始まり、低温貯蔵が可能なため翌年の2月まで食べることができる。

（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）